

液状化の危険、都内2.2平方キロ

南海トラフ想定 島部で死者1774人

南海トラフ巨大地震について、東京都は14日、伊豆諸島と小笠原諸島で計1774人が死亡するとの想定を発表した。大半が最大約30センチの津波による被害という。液状化の危険が高い地域は、都心を中心に9.2平方キロと予測した。

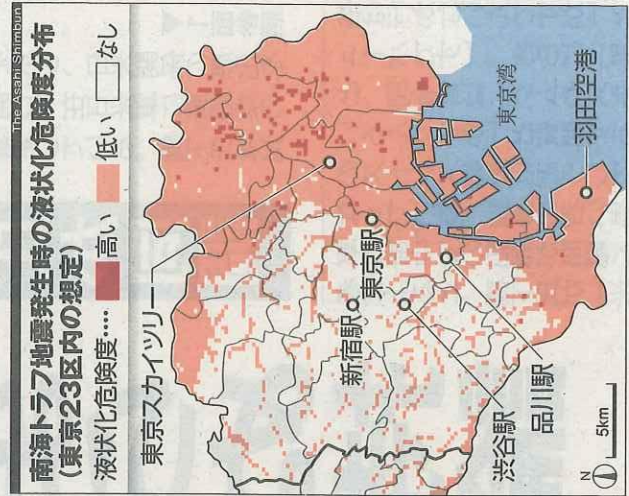
▼39面 津波到達は15分後

最大震度6弱

昨年8月に国が公表した被害想定をもとに、都が建物の位置や築年数のデータなどを加えて独自に分析した。島は最大震度6弱で、深夜に起きた場合、死者は新島で1299人、神津島で268人、父島で86人。

揺れから14分で最大30センチの津波が来る新島では人口の55%が死亡し、震源が変わると死者が1313人になるとの予測も出した。

全体の死者数は国想定より274人増えた。都防災会議地震部会の平田直部会



長は「海岸線や港の構造の詳細なデータを用いたため」としている。一方、島部は海岸近くに高台があり、「迅速な避難行動を取

れば津波による死者はゼロにできる」と呼びかける。建物全壊は1282棟とみられている。都心部では最大震度6

南海トラフ巨大地震による 東京都の被害想定

最大震度6弱

死者数 1774人 (島部)

建物全壊 1282棟 (島部)

最大津波高 30.16m (新島) 23区 (江東区) 2.48m

液状化危険度が高い地域 8.1km² 23区 1.0km² 多摩

The Asahi Shimbun

南海トラフ

静岡県駿河湾から九州東方沖までの海底で約700キロにわたって続く深さ約4千メートルの境界にあたり、南海トラフプレートが陸のプレートに沈みこむ境界にあたり、東南海地震などが繰り返し発生してきた。地震が連動して巨大地震になる可能性が指摘され、国は昨年8月、マグニチュード9.1の地震について被害想定を発表した。

の泥水の噴出が広くみられた。今回の被害想定で、液

状化による建物全壊は国は都内で1千棟と想定したが、都は首都直下地震の被害想定で1134棟と示したとして公開しなかった。一方、23区の津波高は最大で2.48メートルと想定されるが、防潮堤が3.5メートル以上あるため、浸水はほとんどないという。

国の被害想定を受け、徳島、香川、広島各県も独自に想定をつくったが、現地の詳細な分析をへて、いずれも想定被害は大きくなっている。(西宮佑樹、赤井陽介)

弱となり、液状化の危険が高い地域は23区で8.1平方キロ、多摩地区で1平方キロだった。23区では墨田区や江川区で目立った。ほか液状化の可能性がある地域は江東区や中央区など23

区を中心に計405.9平方キロに広がった。23区内では339.3平方キロ。東日本大震災では、震度5強だった江川区を中心に建物56棟が損壊し、東京湾沿岸部で公園や道路から